

第2学年 英語科学習指導案

単元名：Unit7 World Heritage Site

指導者：

- 1 日 時 : 令和5年2月1日(水) 第5校時
- 2 場 所 : 2年 組教室
- 3 学年・学級 : 第2学年 組(38名)
- 4 単 元 名 : Unit7 World Heritage Sites

(1) 単 元 観

本単元は、中学校学習指導要領外国語編 第二章2内容(1)英語の特徴やきまりに関する事項エの(ウ)受け身の文法事項を扱う。題材としては、オーストラリア、イタリア、日本の世界遺産を通して、その素晴らしさや、その遺産が抱える課題、また、世界遺産が人々の心や文化に与える影響などについて考えることができる内容となっている。また、遺産認定を行うUNESCOの理念である「平和の砦」について知ることで、世界遺産が持つ価値や、国や地域を越えた平和の在り方についても学ぶことができる単元である。

単元を貫く問いとしては、「世界遺産になる場所と、ならない場所の違いは何だろう」を設定し、自分が世界遺産リストに載せたいと思う場所について説明する表現活動を行うことで思考を深めさせたい。仲間たちがそれぞれどのような理由でどのような場所を推薦するのかを共有することで、仲間をさらに知る活動につなげることもできる単元である。

(2) 生 徒 観

令和4年4月に行われたNRTによると、本学級の全国比は、聞くこと103、話すこと111、読むこと109、書くこと121で、全ての領域で全国を上回った。しかし、問題別に見てみると、質問やアナウンスを聞き応じる(全国比99)、テーマに沿ってスピーチをする(全国比99)、長文の概要や要点を読み取る(全国比96)と、「何を求められているのか」を捉えるような力が、他クラスよりも低いことがわかった。

同じ時期に行ったhyper-QUでは、4人の生徒が学習意欲が低いという結果が出ており、学級との関係に不安や不満足を抱えている生徒も4人いることがわかった。全体的には親和的な学級集団と言えるが、表面的に見えにくい困難さを抱えている生徒が安心して、または意欲的に学習できる活動を仕組んでいく必要がある。

本学年は、1年時から学期に1～2回、自分らしさの出るようなパフォーマンス課題を継続することで表現力をつけてきた。ALTにも添削に協力してもらいフィードバックを繰り返してきたことで、「自分のことを伝える力」はある程度は付いてきたと考えている。しかし、相手の理解に応じて伝える、相手のコメントに質問で返す、既習表現に言い換えて伝えるなどの、「相手の立場に立って伝える」力はまだ不十分であると感じる。「何を求められているのか」を的確に判断し、「何を伝えれば相手が理解してくれるのか」を整理させながら、言語活動を行いたい。

また、NRTの結果によると、本学級には1～2段階の生徒は21%(8人)おり、中でも課題の大きい1の生徒は5%(2人)である。自分の考えを持つことや、選択肢があっても選ぶことができない生徒もいるため、まずはその壁をなくし、英語活動の場に上げられるような支援が必要である。

(3) 指導観

本単元は、本校で育成を目指す「伝える力」「問題解決能力」に重点を置き指導を展開する。単元の前半では、受け身を正しく使う技能を習得させるため、仲間とのコミュニケーションを通して伝える力を育てたい。その際は、「何のために、何を伝えるのか」を意識させ、相手に伝わる表現やキーワードは何かを考えさせながら行わせる。

単元の後半では、世界遺産が抱える課題や、素晴らしいにも関わらず世界遺産に登録されていない場所について触れながら、「世界遺産への訪問者はどう行動するべきか」「どうすれば世界遺産登録されるか」等について考えさせ、問題解決能力をつけたい。そのため、パフォーマンス課題として、『自分が世界遺産に推したい場所』を UNESCO の機関に認定してもらえるような推薦文を書こう』をテーマに、表現活動をさせる。

支援の必要な生徒には、選択肢や定型文を提示したり、モニターや板書を使って思考や活動の助けになるような表現を示すなど、授業に参加しやすい工夫を行う。

(4) 本単元において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の4点である。

【知識及び技能】			
【思考力、判断力、表現力等】	① 伝える力	② 問題解決能力	
【学びに向かう力、人間性等】	③ 協働する力	④ 公共心	

この中から、本単元で育成しようとする資質・能力は次の2点に重点を置くものとする。

【思考力、判断力、表現力等】

- ① 伝える力 日本のもものや場所について、受動態を使い説明している。
- ② 問題解決能力 世界遺産になってほしい場所を、その魅力が伝わるように説明している。

5 単元の目標と評価規準

- 単元の目標 世界遺産の特徴を知り、その特別な価値、抱える課題、解決策について考える。受け身の文型を理解し、事実を整理して伝えたり、情報の概要を捉えたりする。世界遺産になってほしい場所を、その魅力が伝わるように表現する。

- 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の文型や用法、意味を理解している。 ・受け身の文の理解をもとに、世界遺産などについての情報を正しく捉える技能を身に付けている。 ・受け身の文の理解をもとに、事実を整理して伝えたり説明したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を捉えている。 ・あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとっている。 ・世界遺産になってほしい場所を紹介するために、その魅力が伝わるように表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を正しく捉えようとしている。 ・あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとろうとしている。 ・世界遺産になってほしい場所を紹介するために、その魅力が伝わるように表現しようとしている。

6 指導と評価の計画 全13時間 (本時は4/13)

次	学習内容 (時数)	評価					
		知技	思判表	主体	評価規準	評価方法	資質・能力 (評価方法)
1	受け身(肯定文)の文型を理解し、事実を伝える文を正しく書く。	◎			〔知技〕受け身の文の理解をもとに、事実を整理して伝えたり説明したりする技能を身に付けている。	行動観察 振り返り	
2	世界遺産とはどのようなものかを読み取る。			◎	〔主〕世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を捉えようとしている。	行動観察 振り返り	
3	受け身(疑問・否定文)の文型を正しく理解し、事実を尋ねる文を正しく書く。	◎			〔知技〕受け身の文の理解をもとに、事実を整理して伝えたり説明したりする技能を身に付けている。	行動観察 振り返り	
4	受け身の文型を正しく理解し、簡単なコミュニケーションをとる。		◎	◎	〔思判表〕〔主〕あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとっている/とろうとしている。	行動観察 振り返り ワークシート	【伝える力】 日本のものや場所について、受動態を使い説明している。
5	ブルーマウンテンが自然遺産である理由を読み取る。		◎		〔思判表〕世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を捉えている。	行動観察 振り返り	
6 7	世界遺産ベネチアを紹介した文を読み、情報を正しく捉える。	◎	◎		〔思判表〕世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を捉えている。 〔知技〕受け身の文の理解をもとに、世界遺産などについての情報を正しく捉える技能を身に付けている。	行動観察 振り返り	
8	助動詞を含む受け身の文型を正しく理解し、事実を伝える文を書く。	◎			〔知技〕受け身の文の理解をもとに、事実を整理して伝えたり説明したりする技能を身に付けている。	行動観察 振り返り	

9	富士山が、人の心や文化にもたらす影響を読み取る。	◎	◎	〔思判表〕世界遺産の特徴などについて知り、その特別な価値について考えるために、情報の概要を捉えている。	行動観察 振り返り	
10				〔知技〕受け身の文の理解をもとに、世界遺産などについての情報を正しく捉える技能を身に付けている。		
11	世界遺産になってほしい場所の魅力を伝える。	◎	◎	〔思判表〕世界遺産になってほしい場所を紹介するために、その魅力が伝わるように表現している。	ワークシート 振り返り 作品	【問題解決能力】 世界遺産になってほしい場所を、その魅力が伝わるように説明している。
12			◎	〔主体〕世界遺産になってほしい場所を紹介するために、その魅力が伝わるように表現しようとしている。		
13						

7 本時の展開

(1) 本時の目標

受動態を使って、身近なものを説明する。

(2) 観点別評価規準

【思考力・判断力・表現力等】あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとっている。

【主体的に学習に取り組む態度】あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとろうとしている。

評価方法：行動観察，ワークシート，振り返り

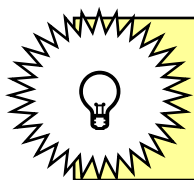
(3) 育成したい資質・能力の評価基準

資質・能力	評価基準（例）
①伝える力	A 日本のものや場所について、受動態を1つ以上使い、相手の理解に応じて必要な情報を入れて説明している。 B 日本のものや場所について、受動態を1つ使い、説明している。 C Bを満たしていない。

(4) 準備物：Chromebook, カード, ワークシート, 振り返り, ミニテストシート

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入	<p>○Mini conversation 5分で3人以上と3往復以上の会話を目標に行う。</p> <p>○Mini test 前日の宿題の単語テスト （自己採点）</p> <p>○受動態復習</p> <p>課題の設定</p>	<p>・できるだけ2文以上の返事で返す。</p> <p>◆カードの英文にカタカナを振り、会話が始められるようにする。</p> <p>・テンポよく進める。</p> <p>◆本時の展開に繋がる文で復習する。</p>	
	<p>【本時の目標】 外国人に日本の物や場所の説明を求められた時の練習をする。</p>		
展開	<p>○活動の説明 例文の提示（モニターで提示）</p> <p>○活動開始</p> <p>・カードに書かれた物や場所を相手に説明したり答えたりする。</p> <p>・お互いに説明し合ったら、新たなカードを取り、新たなペアで繰り返し行う。</p>	<p>・修学旅行へのイメージを持たせ、必要感や意欲を高める。会話のイメージを持たせる。</p> <p>◆モニターに文型を映しておく。</p> <p>・必要な情報から伝えて、できるだけ1文で相手に当ててもらおうように説明させる。</p> <p>・説明が上手だった生徒がいれば、それを共有する。</p>	<p>○〔思判表/主体〕 あるものを説明するために、事実を整理し、コミュニケーションをとっている／とろうとしている。</p> <p>☆伝える力 日本のものや場所について、受動態を1つ使い、説明している。</p>
	<p>○ワークシートによる強化</p> <p>・モニターに、3つの絵や写真を提示し、説明文を書かせる。</p>	<p>・他の人の説明を聞いて、参考になる表現があれば取り入れさせる。</p> <p>・同じ物を説明するにしても、様々な表現があることを共有する。</p>	
まとめ	<p>○振り返り</p>	<p>・本日の活動で、いくつの物を説明し、当ててもらえたか、誰の説明がわかりやすかったか、それはなぜだと思うか、わかりやすい説明には何が必要だと思うかを書かせる。</p>	



【主体的・対話的な学びの時間】
カードに示された物・場所などを、相手に当ててもらおう。

How do you explain if you are asked by foreigners?



1

This food **is eaten** with sauce.

It **looks like** a pizza.



It **is loved by** many people in Hiroshima.

There are many kinds, such as Hiroshima, Osaka, Mihara, Onomichi.

2

This story **is known by** many people.



It **is read by** children.

Turtle won the race.

3

This castle **is visited by** many people.

It **was built by** Hideyoshi.

It **is known for** Shachihoko.

4

This **is seen** in summer.

It **was drawn by** Gogh.

It is an yellow flower.

5

They **are used to** eat food.

They are useful **when** we eat noodles.

They **are made from** wood.

6

This event **is held in** August.

Eggplants and cucumbers **are used to** welcome the spirits.

Many people come back to their hometown.

7

This ○○ be (is/are/was/were) 過去分詞~

この○○は~されている・された

いつ on ~, in~, during~,
when 主語 動詞 (主が動する時)

どこで in ~

だれによって by ~
(何人によって)
何をするために to 動詞

必要な
情報とは?

8